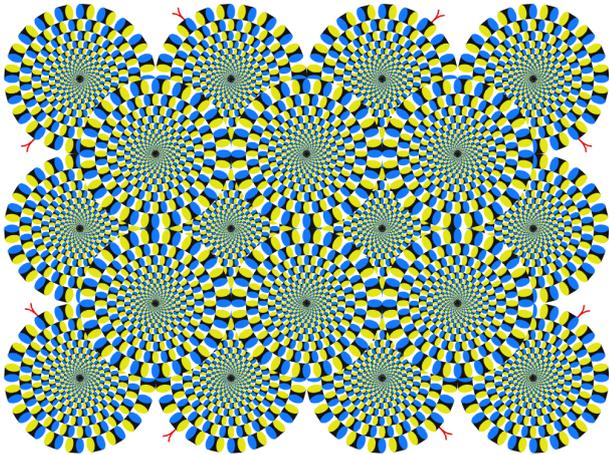
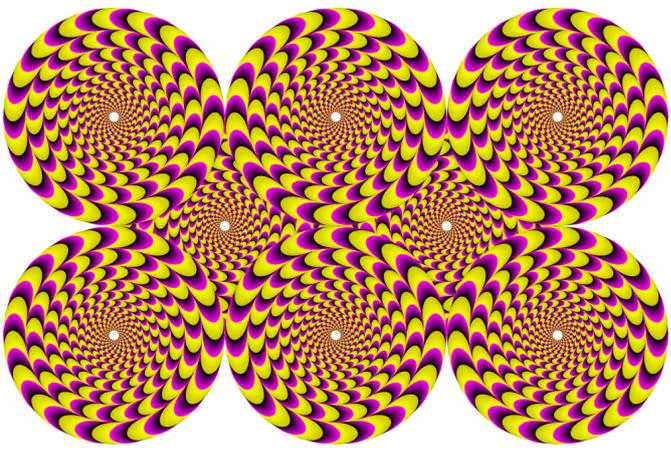


静止画が動いて見える錯視の評定

本質問紙は、静止画が動いて見える錯視のうち、最適化型フレーザー・ウィルコックス錯視のサブタイプのうち、タイプ I とタイプ II (Kitaoka, 2007) のそれぞれの個人差 (年齢の要因も含む) を調査するとともに、両者の相関の高さを調べることを目的とするものです。配布致しました「蛇の回転」(Rotating snakes) の図と「赤い蛇の回転」(Rotating red snakes) の図をご覧になり、下記質問紙に、無記名でお答え頂けますと幸いです (謝礼なし)。皆様からお答え頂きましたデータにつきましては厳重に保管致しますとともに、皆様には迅速に結果をお伝え致します。さらに、その結果は、北岡の講義、ウェブページ、講演、学会発表、学術論文等において学術目的に使わせて頂くことがあります。ご協力頂けない場合は、提出をしないか、協力をしないことがわかるような記述をして (例: 一部回答しない) ご提出下さい。不提出・不協力による不利益は一切ございません。なお、あくまで自発的にですが、余白にコメント等も書いて頂けますと大変参考になります。

「蛇の回転」(タイプ II)	「赤い蛇の回転」(タイプ I)
	
<p>あてはまるものにマルをして下さい (評定法)。</p> <ol style="list-style-type: none"> よく動いて見える。 動いて見える。 わずかに動いて見える。 全く動いて見えない。 	<p>あてはまるものにマルをして下さい (評定法)。</p> <ol style="list-style-type: none"> よく動いて見える。 動いて見える。 わずかに動いて見える。 全く動いて見えない。

<p>「蛇の回転」の錯視的動きの量を 10 とした場合の「赤い蛇の回転」の錯視の強さを見積もり (マグニチュード推定法)、右の空欄に書いて下さい。小数点以下があってもよいです (例: 7.25)。動きが感じられない場合は 0 として下さい。「蛇の回転」が「全く動いて見えない」方はこの心理物理学的研究法は使えないので、空欄にして下さい。</p>	<p>マグニチュード推定値</p>
--	-------------------

<p>あなたのご年齢を教えてください。</p>	<p>歳</p>
-------------------------	----------

ご協力、ありがとうございました。